

ツマジロクサヨトウ情報第2号

令和3年6月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

飼料用トウモロコシほ場で幼虫による被害を確認しました 今後の発生状況に注意しましょう

1 本年の愛知県での幼虫寄生確認経過

令和3年6月17日、西三河地域（豊田市）の飼料用トウモロコシ栽培ほ場で、ツマジロクサヨトウ幼虫（図1）及び食害痕を確認しました。なお、本年のフェロモントラップでの成虫の初誘殺は5月26日に長久手市の農業総合試験場内ほ場において、確認しています。

2 本種の形態及び特徴

幼虫（図1）は、主に飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム等の葉を食害します。食害が進むと、茎頂部に潜り込んで、展開前の葉を食害するため、葉の先端に大きな穴が開いたり、切断状になります（図2）。

終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状の見える斑紋があります。また、尾部に黒色斑点があります。

3 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン及びソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努めましょう。
 - (2) 本虫は、柔らかい葉を好んで食害する傾向があり、生育初期に幼虫の食害を受けると被害が大きくなります。発芽後間もないほ場や、これからは種を行うほ場では特に注意しましょう。
 - (3) 幼虫の発生を確認したら、防除を行いましょう。本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照してください（注）。
- 注：https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-147.pdf
- (4) 農薬散布を行う場合は、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布しましょう。なお、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）には十分注意しましょう。
 - (5) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残さをすき込みましょう。



図1 捕獲したツマジロクサヨトウ幼虫



図2 本種幼虫による食害
(飼料用トウモロコシ)